

模擬授業 実践事例

1 福祉教育実践の経緯

小学校の先生から「4年生の総合的な学習の時間を1時間使って、福祉教育の授業をしてほしい」と社会福祉協議会に依頼がありました。



先生〉総合的な学習の時間を通して「違いを認め合い、お互いを思い合える関係」を育みたいと考えています。障がいのある人の暮らしを理解する一つのきっかけとなるような福祉教育の授業をお願いします。今後、総合の時間で地域研究もしたいと考えているので、地域のバリアフリーについてもまとめのお話で触れてもらえると助かります。

この小学校では例年「車いす体験」を実施しており、前任の資料も残っていることから、担当者は例年どおりのプログラムを実施することにしました。

2 プログラム内容

- 目的** 障がいのある人や介助する人の気持ちや生活について理解する
車いす体験を通して地域のバリアフリーの取組みについて考える
- 実施者** 社協の福祉教育担当者2名 **協力者** 担任、副担任の先生
- 対象者** 4年生 20名
- 準備物** 車いす 10台、車いす体験用コース案内図
- 進め方**

時間	活動内容
15分	・全体で車いすの使用方法や動かし方の説明をする。 ・生徒も2人1組になって、実際に車いすを使いながら、使用方法、介助の方法を学ぶ
20分	・体験コース（体育館内）を車いすで移動したり、動作を試したりする。 （交互に）
10分	・体験して感じたことについての意見を交換する。 ・まとめのお話